

## 青梅市立第七小学校 創立150周年記念事業の取り組み

### 【「宿谷家日記」の製本・出版】

3年前より解読を進めていた「宿谷家日記」の製本・出版を150周年記念事業の一つとして取り組み、本年8月末に翻刻版150冊、現代語版300冊が完成し、10月28日の記念式典までの間に保護者、地域の方々を初め、教育委員会・中央図書館・郷土博物館等の青梅市諸機関に贈呈いたしました。

また、社会科で歴史を学習している6年生が、「宿谷家日記」と「市川家日記」を教材として幕末から明治にかけての地域の歴史を学習しました。

さらに、別の家から頂いた資料の中に、明治15年の南小曾木村学校（博文学校）の状況を神奈川県庁に報告したのを見つけ詳しく調べましたところ、次のような記述がありました。

一、授業料 無之 ※無料

一、経費 収入支出

収入概額 一ケ年 金四百七十八円

※当時の一円は現在の約2万円

内訳 積金利子 一ケ年 金三百八十四円

有志寄附金 一ケ年 金六十円

前年繰越金 金三十四円

この資料から分かることは、「宿谷家日記」にも記述されているように、創立当初授業料を一人当たり月五十銭（約1万円）徴収していましたが、少なくとも8年後の明治15年には授業料を徴収しなくて



も済むようにしたということです。

日記の著者宿谷八郎兵衛は学校創立の世話役をしていましたが、家業として農業の他に質屋業も営んでいました。学校を設立するに当たり運営資金について村の人々と相談し、有志から資金を募り、その資金を質屋業に運用し、利子を学校の運営資金として活用したようです。その考えに賛同し、資金を出した村人は177世帯中110世帯に上りました。村全体の約60%です。明治政府が尋常小学校の義務教育無償化に踏み切ったのが明治33年ですので、それよりも約20年も前に南小曾木村では村の子弟教育のために協力し合って授業料を無料にしていたというのは誇るべき地域の歴史です。

「宿谷家日記」は小曾木市民センター図書館でご覧になれます。  
(第七小校長 森田哲生)

## ホタルふやしたい実行委員会



ホタルふやしたい実行委員会で、カワニナ見学会を開催しました。雨だから、センターでお話かなと思っていましたが、講師の鹿島さんが、水かさがあがったから用水路にカワニナが沢山いますよと連絡いただき、見学会が出来ました。6中の市川先生、平林先生も最後まで参加してくれました。カワニナの他にしじみも発見して、賑やかでした。

ホタルは黒沢川中心にみられます。厚澤はもうしばらくお待ち下さい。児童生徒17名参加、みんな仲良く、大人も楽しく学べた見学会でした。(島田福美)

